

に い が た ろうしきょう NEWS

新潟県老人福祉施設協議会広報誌
2014. 11. 20 NO. 22

■2014年度新潟県老人福祉施設協議会活動報告

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！すまいる介護ウーマン



祖母の介護をする母を見て
「私も役に立ちたい！」

1 「私、おしゃべりなんです」。最初はコミュニケーションが上手くとれなくて苦労したが、最近は楽しみに。笑顔を見るのが何よりの励みになっている。



2 施設の名前通り、米山が一望。美しい景色を見るだけで心がいやされる。

■**つらかったこと** 勤め始めた頃は、認知症の進んでいる方との意思の疎通が難しかったですね。何を伝えたいかわからなくて焦るだけで。ゆっくり話を聞くようになって少しずつ理解できるようになりました。

■**今後の自分** 引きずるタイプなので、失敗すると夜もドキドキして気をもんでしまうんです。それでも、失敗した後、利用者様と会話し笑顔を見ると、「たいへんだっただけど今日も仕事に来てよかったなあ」と思います。将来は先輩方のように、優しく利用者様を第一に考えられる介護士になりたい。今は自分のことで精一杯ですが、先輩のいいところを学んで成長して行きたいですね。



私たちはお世話ではなく、生活のお手伝いをしているんです。

すまいるウーマン 金子美里さん

○所属 特別養護老人ホーム よねやまの里
○経歴 1994年8月生まれ 上越市柿崎区出身。上越総合技術高校～通信教育でヘルパーの資格を取得後、現職。
○趣味 読書、写真、音楽。



3 定員100名の特養。施設は短期入所20床が増設されて現在の形に。柿崎区の高台にあって抜群の景観。海も近い。



特別養護老人ホームよねやまの里

○運営 社会福祉法人 松波福祉会
○特別養護老人ホーム 定員100人
○ショートステイ 定員20人
○新潟県上越市柿崎区柿崎6414-1
TEL025-536-4400

介護に対する考えを変えた一言

■**就職の理由** 生まれた時から柿崎。小学校と、この施設に交流がありました。訪問しているうちに福祉を身近に感じるようになって、高校では福祉器具のデザインも。その頃、施設の相談員の方と話して介護に対する考えが変わりました。「私たちは生活のお手伝いをしているんです」。お世話ではなく、お手伝いなんだって。私もお手伝いをしたいと思いました。ここに就職できて、私は幸せです。

■**仕事のポイント** 同級生のお母さんが施設の先輩だったから勤務前に仕事のたいへんさは聞いていました。母も別の介護施設で働いていて、業界の先輩。二人は尊敬する相談相手で、時には厳しい指導を受けますが、よかった時は褒めてもらえます。直したいのは確認ミス。この仕事は職員どうしの連絡や、利用者様とのコミュニケーションが一番大事だし難しいですね。

第20回研究大会大特集



松井裕 実行委員長

平成26年9月24日、25日の二日間に渡り、第20回新潟県老人福祉施設研究大会を初めて柏崎の地で、地元柏崎市をはじめ各関係機関団体、行政機関、実行委員会、事務局及び関係者の皆様からご支援ご協力いただき無事盛会に終了することができましたこと感謝申し上げます。

さて、第20回という節目の研究大会である本大会は、社団法人化10周年の記念大会でもあり、超高齢社会の

研究大会【記念大会】を終えて

現在、私たち老人福祉施設が果たす役割の重要性を再認識するとともに根拠に裏付けられる質の高いサービスの提供と未来志向の資質向上をめざし、テーマに『実践、発見、挑戦の介護』サブタイトルとして『担おう、地域を支える介護力』と掲げ、柏崎市に約500年前から伝承されている重要無形民俗文化財「綾子舞」をオープニングに、式典をはじめ、記念講演第1部は冒険家・プロスキーヤー 三浦雄一郎さんから「夢をいつまでも」と題して70・75・80歳と3度に渡るエベレスト登頂成功のエピソードをはじめ幾つかの大病を患った中でも「人生あきらめなければ夢は叶う」と夢を追いつける大切さについて、お話していただきました。

また、第2部では、老年医学専門医の大蔵暢・トラストシニアクリニック・等々力院長から「超高齢社会を『よりよく生きる』」と題して、「高齢者はその人らしい1日を過ごし、介護者として、その

人らしく老い、生き終えることをサポートすることが大切」と話され、参加された皆様の関心も高く、施設関係者並びに一般市民ら合わせて約800人の方々から聴講していただきました。

2日目の分科会は、現在の高齢者社会に携わる私たちが直面している課題を3会場において、「経営」「デイサービス」「医療との連携」「認知症」「看取りケア」の5つのテーマ3会場に分かれ、各講師の講演をはじめ現場職員からの実践報告や意見交換がなされ時間の超過する分科会もあるほど熱い力に満ち溢れ本大会が成功に終わったのではないかと思います。最後に、実行委員長として至らない点多々あったかと思いますが、第5ブロックをはじめ多くの方のご協力により、本大会を無事終了できたこと心より感謝申し上げます。

大会1日目【全体会】



綾子舞

今年は法人化10周年の記念大会となり、柏崎市が誇る重要無形民俗文化財「綾子舞」の公演を実施しました。写真は、柏崎市綾子舞保存振興会下野保存会の皆様です。



会長挨拶

松井実行委員長の開会宣言の後、市井会長は「柏崎での研究大会が新しい10年の始まりとなり、我々の活動が高齢者の尊厳の保持、自立の支援、社会復帰のために活かされることを信じている」と主催者の挨拶を行いました。また会田柏崎市長はじめ多くのご来賓から祝辞を頂きました。



記念講演Ⅱ

大蔵 暢氏は、43歳の老年医学専門医です。患者さんの様々な症例とぶつかり、部分的な治療のみではなく、総合的診断・治療を行ったうえで、単なる長寿というよりも毎日をより良く生きることが大切と言っておられました。



総合司会

総合司会は、特養はやまの里・施設長 小玉真寿美氏にお願いいたしました。落ち着いた語り口が印象的で、安定感あふれる振舞いでした。



記念講演Ⅰ

三浦雄一郎氏は、エベレストを3回登頂され、昨年80歳での登頂が現在ギネス世界記録に認定されています。「夢を持ち続け、諦めなければ夢は叶う。次は85歳でヒマラヤからスキーで直滑降だ。」この前向きな姿勢や考え方を参考にしなければなりません。



交流会

今年の交流会は参加者が300人を超える大型交流会となり、柏崎市の山田副市長も駆けつけてこられ、本会の社団法人化10周年に対し祝辞を頂きました。



社会福祉法人の経営

おなじみの千葉正展氏（独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンターリサーチグループ グループリーダー）、徳永憲威氏（桑の実園福祉会理事長）。やはり社会福祉法人として何をしなければならないか、が常に議論的になっています。

自信とやる気、アイデアと熱意がなくては出来ません。そのためには冷静な現状分析が必要です。

第2分科会



デイサービスの経営

全国老施協の小川弥仁氏（デイサービスセンター部会長）による講演と、生きがい広場地蔵堂・デイサービスの長谷川新一氏、大久保雅史氏他4組の皆様による事例発表でした。

施設に来ることだけではなく、それを地域の中での活動の一つと捉え、ご利用者の「生涯現役」のお手伝いをするという発想は素晴らしいですね。

第3分科会



介護と医療の連携

介護と医療の連携は、毎回分科会の課題となっていますが、今回は松浦美千代氏（老健なのはな苑看護部長）と、山岸美恵子氏（新潟県薬剤師会副会長）による講演となりました。「高齢者に処方される薬の知識と管理」は新たな試みで、正に介護と医療の連携を感じました。

大会2日目【分科会】



第4分科会

認知症ケア

今回の「知症ケア」は、小山朝子氏（介護ジャーナリスト）と森橋恵子氏（認知症疾患医療センター・センター長）による講演となりました。ジャーナリストも認知症疾患療養センターからの専門家の招聘も、おそらく初めての試みだったと思います。特養菅名の里岩城洋平氏、木村まり子氏他4組の皆様が事例発表を行いました。

第5分科会

尊厳のある看取りケアへの接近

服部伸氏（上越医師会会長・外科医）、新津ふみ子氏（特定非営利法人代表理事）からご講義の後、お二人そろって指導をして下さいました。事例発表は特別養護老人ホームみやまの里松尾精子氏、星沢さや子氏他3組の皆様でした。



総合司会を担当して



初めて研究大会スタッフとして、初日に行われた全体会の総合司会を務めさせていただきました。開催に至るまでの関係者のご苦労や、大会に携わる多くの方々の熱意を身近に感じ、最後まで気を抜くことが出来ませんでした。特に、会長表彰を受けられる方々のご紹介は、身の引き締まる思いでした。記念講演では、講師の三浦雄一郎氏と大蔵暢氏のお話に深い感銘を受け、間近で拝聴できたことに大きな喜びを感じておりました。滞りなく会を進めることができましたのは、会場の皆様の温かい拍手と、傍らで励ましてくださるスタッフの方々の支えがあったからです。貴重な機会を与えていただいた事に、心から感謝申し上げます。有難うございました。

特別養護老人ホームはやまの里
施設長

小玉真寿美

被表彰者を代表して



この度は、このような表彰を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。今年度、受賞されました方々の代表として、市井会長、役員関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

このような機会を頂いたことで自身の職業人生を振り返り、福祉職を志した当時の気持ちを思い出し、これまでの多くの「学び」を与えて下さった方々に感謝の気持ちを伝えることができ、心からありがたく存じます。

今後も高齢者福祉の担い手として、専門性高く、根拠に基づく質の高いサービスを提供し地域社会に貢献するよう精進して参ります。

ご指導宜しく願いいたします。

特別養護老人ホームしおさいの里
生活相談員

星野敦子

大会運営に参加して

実行委員としてがんばりました！



▲昨日の富士山初冠雪です。

先日行われた研究大会に、実行委員（第5ブロック21世紀委員）として運営に参加させていただきました。初日は、受付責任者として、たくさんの参加者をお迎えすることができ、無事に役目を終えることが出来ました。何よりも、当日ご協力いただきました係員の皆様に感謝いたします。

2日目は第5分科会「尊厳ある看取りへの接近」を担当しました。看取りケアに関する事例発表では、それぞれの立場からの実践報告により、看取りのケアに対する“思い”“悩み”などお話をいただきました。総括では、新津ふみこ氏、服部伸氏の助言により更に内容を深める事ができました。

最後に、次年度は制度改正後の混沌とした時期に行われる大会となります。是非、光明が見える機会となるよう期待しています。

特別養護老人ホーム新光園
園長

金子美朗



◀三浦雄一郎氏と。後列左から二人目が西條さん。

第20回研究大会に実行委員として参加し、大変貴重な経験をさせていただきました。

「来年は第5ブロック担当」から始まった大会準備は1年がかりで、今まで気楽に研修会に参加していた自分を恥ずかしく感じる事の連続でした。盛会の陰には多くの知恵と力と連携があることを実感し、業務では関わることの少ない施設長の皆様と一緒させていただけたことも、大きな収穫となりました。大会を通じてできた地域・職域を超えた大きな輪は、高齢者に夢のある質の高い毎日を送っていただくための介護力に繋がっています。この経験に感謝し、介護力の輪を更に広げていけるよう努力していきたいと思います。

ありがとうございました。

特別養護老人ホームさくら聖母の園
管理栄養士

西條愛美

第5ブロックの皆様、ご苦労様でした。



クレイドルやけやま
津軽明子

今回初めて、運営委員として、来賓の接待を担当させていただきました。

朝の打ち合わせでは、会議室に入りきらないほどのスタッフがいて、大勢の力で大会が運営されていることを知りました。私は1日だけでしたが、実行委員の方々は、何か月も前から準備し、大変なご苦労だったと思います。現場を第一線で引っ張ってきた方々が中心となって運営され、皆さんの団結が強いことを感じました。貴重な経験をさせていただきました、ありがとうございました。



なごみ荘
近藤政代

地元開催ということで、私の施設でも多くの職員が参加の機会を頂き、自分の希望する分科会などで学ぶことができました。今回、研究大会のスタッフとして第5分科会に参加させて頂きましたが、初めての事でどう動いてよいのかと思っていましたが、いざ始まってみれば大会委員の方々が声を掛けて下さり、受付係として開始前の慌ただしい時間も、期待感へと変わりました。分科会の講義・発表では「そうそう」と共感し、「こんなように考えればいいんだ」と発見があり、二重得を感じさせて頂きました。充実感のある一日をありがとうございました。



第20回を新潟県老人福祉施設研究大会、社団法人化10周年が地元の柏崎市で行われ、運営委員として関わらせて頂きました。私が勤務している施設が、柏崎市文化会館アルフォーレに隣接しているため、身が引き締まる思いで二日間を過ごしました。全県より老人福祉に関わる多くの方々との交流・意見交換の場として柏崎にお集まり頂き、私自身も講演や分科会を通し、地域への社会貢献ができる人材を目指し、精進していきたいと改めて感じました。このような貴重な機会を頂いたことに感謝し、今後の業務に活かしていきたいと思います。

ベベ・メール 矢嶋 健



柏柳の里
入澤重子

大会2日目の第4.5分科会が開催された産業文化会館で救護を担当し、研究大会の運営に参加させていただきました。二つの分科会を合わせて300名以上の参加者でしたので、緊張して会場に参りました。すぐにAEDの設置場所を確認し、心の準備をして大会に臨みました。幸い頭痛の方がおられましたが、大事に至らなく良かったです。他のスタッフの皆さまとの交流やご苦労が分かり大変勉強になりました。

このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



名香山苑
古澤勇也

今回は第20回研究大会に運営委員として参加させていただきました。運営委員とは資料準備、受付、来賓接待などを実行委員の指示のもとで行う裏方作業になります。いつもの参加者側とはまるで違う役割に戸惑いながらも、裏方としての仕事の多さ、参加者への気配り、トラブルへの対処など、日常の仕事では経験できない体験をさせていただきました。今後、研修会などに参加する際は、裏方さんの見えない仕事にも感謝しつつ、学びを深めたいと思います。

●施設長リレーコラム●



地域と共に歩む

特別養護老人ホーム白寿荘西 施設長

内藤桂子さん



特別養護老人ホーム白寿荘西は西蒲区(旧巻町)に平成16年5月に開設し、今年で11年目を迎えます。ユニット型特養(50人)の他、短期入所(10人)、ケアハウス(特定24人・一般11人)、ヘルパーステーションが併設されています。

「地域に信頼され共に歩む施設づくり」を法人理念として、各部署が取り組んでいます。

一人ひとりに寄り添うケアとは、当たり前暮らしの継続とは…とスタッフ一同で悩み、模索しながら日々ケアをしています。

利用者様の楽しみとなっている手芸、書道、生花、句会等のクラブ活動には、特技・専門知識をお持ちのボランティアさんの存在は欠かせません。

法人が力を入れていることの一つに「音楽療法」があります。唱歌、流行歌などをきっかけに引き出される利用者さん

の普段とは異なる表情・思い出話からは音楽を通じた回想の効果を実感させられます。

もう一つは、地域の方の健康長寿のお手伝いとして「歌声喫茶」を月2回開催しています。地域の方、入所者様など毎回40～50人位の方が地域交流スペースに足を運んでくださっています。どんな方でも気軽に集える場を提供することで、施設入所しても地域の方とのつながりが継続され、地域の方には施設の活動を知ってもらう機会となっています。

他にも職員の知識・技術を活かし、ダンベル健康体操、エアロビ教室、腰痛・膝痛予防教室等を行っております。

今後も皆様が地域で暮らし続けるために、施設として地域に貢献できることは何かを考え続けていこうと思います。



歌声喫茶



職員によるにいがた総踊り体操(敬老祭)

事業所所在地	新潟県新潟市西蒲区巻甲4363番地
運営事業者	社会福祉法人 巻老人福祉協会
事業所の種類	特別養護老人ホーム
連絡先等	TEL 0256-72-1077 FAX 0256-72-1119



編集後記



今回の研究大会は、オープニングアトラクションとして「綾子舞」公演を取り入れたこと、参加総数も650人、その他に地元一般の皆様が200人ほど参加されたこと、300人参加の大交流会となったこと、広告掲載件数が41件で、法人化以

降最も多かったこと、記念講演に会員施設のご利用者様が大勢来られたこと、記念講演の講師がギネス記録を2件も持っていたこと、そしてもう一方の講師が、ご自分の息子さんやご両親を連れてこられたこと等、微笑ましいこともあって、

大規模なおかつアットホームな大会になりました。ご参加下さいました会員の皆様、運営にご協力下さいました第5ブロックの会員の皆様、本当に有難うございました。さあ、新しい10年に向けて真正面から課題に取り組んでいきましょう。



発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ2F
電話 025-281-5534 発行人 市井 栄吉
にいがたろうしきょう NEWS 平成26年11月20日発行